

普及活動現地情報

「農業現場では、今」

平成31年3月号



【伊都振興局】3/6 農業技術講習会果樹専門コース（第4回）の開催

和歌山県農林水産部経営支援課
(農業革新支援センター)

はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



< 目 次 >

頁数

I 海草振興局	1 - 3
1. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地への取り組み】 ～しもつ地域での援農プロジェクトを考える交流会を開催～	
2. 普及活動実績報告会を開催	
3. 田舎カフェを開催	
II 那賀振興局	4 - 5
1. 紀の川市環境保全型農業グループ総会・研修会を開催	
2. 紀の川市農業士総代会、研修会の開催	
III 伊都振興局	6 - 7
1. 農業技術講習会果樹専門コース（第4回）の開催	
2. 新規就農者座談会を開催	
3. 隅田地域農産物利用推進協議会が研修会を実施	
IV 有田振興局	8 - 10
1. 有田地方生活研究グループ連絡協議会 リーダー研修会を開催！ ～地元花きを活用したフラワーアレンジメント～	
2. 有田ネット21が研修会を開催！	
3. 温州みかん苗木の植付研修会を実施	
4. 有田地方環境保全型農業研究会が第3回研修会を開催！	
V 日高振興局	11 - 13
1. 重点プロジェクト 【新病害虫や梅干し生産への特化のリスクに強い梅産地づくり】 ～「露茜」の導入推進・生産安定技術の実証と「ウメ斑入果病(仮称)」の まん延防止～	
2. 由良町農業士会が現地研修会を実施	
3. 由良町生活研究グループが子供料理教室を開催	

VI 西牟婁振興局	14-16
1. 重点プロジェクト【気象条件に対応した果樹産地の振興】 ～温州ミカン「YN26」のせん定研修会を実施～	
2. 西牟婁地方農山漁村女性の日のつどい～見直そう！地域の伝統食～を開催	
3. 音無茶栽培勉強会を開催	
VII 東牟婁振興局	17-19
1. 三津ノ地域活性化協議会が地元野菜の加工品評価交流会を開催	
2. 三津ノ地域活性化協議会が鳥獣被害防止対策研修会を開催	
3. アグリビギナー農業経営研修会を開催	
4. 北山村でじゃばらせん定講習会を開催	
5. 太田のナス組合が栽培出荷検討会を開催	
VIII 農林大学校 就農支援センター	20
1. UIターン就農相談フェアを開催	
IX 経営支援課（農業革新支援センター）	21
1. 普及活動計画実績発表会を開催	

I 海草振興局

1. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地への取り組み】

～しもつ地域での援農プロジェクトを考える交流会を開催～

3月27日、海南・下津農業の将来を考える取組ワーキングチーム（以下：下津 WT、事務局：農業水産振興課）が「しもつ地域での援農プロジェクトを考える交流会」を JAながみねしもつ営農生活センターで開催し、農業者や関係者など33名の出席があった。

はじめに、今年度、下津 WT で取り組んできた援農に関する取組事例や地域への展開に向けた方法案などについて事務局より説明し、参加農業者に多くの意見を出してもらうよう働きかけた。

続いて、話題提供として下津町市坪地区で援農キャラバンに取り組んでいる農業者グループのリーダーである東本光弘氏から、5年前に同地区で援農キャラバンをスタートさせた経緯や具体的な取組内容について、また、既に援農プロジェクトに取り組んでいる FROMFARM の大谷幸司氏からは現在の援農の取組状況について説明が行われた。

その後、3グループに分かれて各地区での労働力の確保状況や課題、今後の取組への意見などを話し合った。グループに分かれての話し合いでは、農業者・関係者が地域の将来を話し合って考えていくことの重要性や援農者の宿泊場所の確保、滞在型援農者の収穫期以外の雇用マッチングなどについて多くの意見が出された。

当課では、交流会で出された意見等を踏まえて、地区単位での取組に向けたリーダー育成や地域での連携体制などについて下津 WT の場で検討していく。



援農主催者からの情報提供



3グループでの意見交換

2. 普及活動実績報告会を開催

3月4日、農業水産振興課では、JAながみねとれたて広場内研修室において和歌地方総合農政推進協議会（会長：尾花正啓 事務局：農業水産振興課）の運営委員と普及指導協力委員に対して、30年度普及活動実績報告会を行い、関係者21名が出席した。

当日は、当課職員より重点プロジェクト1課題、一般課題2課題、その他1課題の発表を行った。その後、和歌山市、海南市、紀美野町の3グループに分かれて地域の課題等について意見交換会を行った。意見交換会では、委員らから「県内で種ショウガ生産を普及しているところと取組をしていると思うが、ショウガ生産者の雰囲気はどのようなものか」、「新規就農者が地域に溶け込むために必要なことは何か」、「地域に若い人がいないので学生に来てもらえるような取り組みはできないか」といった話題が挙げられ、各グループで活発な意見交換が行われた。

当課では、来年度も関係機関と連携をとりながら、普及活動に取り組んでいく。



各課題の発表



意見交換会

3. 田舎カフェを開催

3月13日、和海地方生活研究グループ連絡協議会（会長：松田吉恵）が、食文化の伝承、地域農産物利用推進、農村女性活動の活性化を図ることを目的に、紀美野町総合福祉センターで「田舎カフェ」を開催し、会員・関係者約60名が参加した。

前半は、講師に滋賀県栗東市の‘もんぺおばさん田舎工房’で料理講習、食品加工、食育など多岐にわたる活動をされている中井あけみ氏を招き、地域ぐるみで子供たちも交えた料理体験、地産地消のハナモモ市、朝市の開催など、これまでの取り組みについて講演頂いた。

後半の田舎カフェでは、会員らが調理して持ち寄った地元の野菜や果実を使ったお餅や炊き込みごはんなどの料理やハーブティ、甘酒などが並び、各グループからそれぞれの料理のレシピ紹介があった。

試食では、参加者全員で野菜や果物の彩りを活かした多くのメニューの見た目や味を楽しみ、会員同士の交流を深めていた。



中井あけみ氏による講演



料理の試食



会員からのメニュー紹介



地元産野菜、果物を使った料理

Ⅱ 那賀振興局

1. 紀の川市環境保全型農業グループ総会・研修会を開催

3月19日、紀の川市環境保全型農業グループ（会長：畑敏之氏）は打田生涯学習センターで平成31年度総会及び研修会を開催し、会員ら26名が出席した。

総会では平成30年度の事業報告及び収支決算報告が行われ、平成31年度の事業計画については、果樹や野菜の研修会の開催や先進地研修などが承認された。

研修会では、「鳥獣害対策の基本」と題して、県果樹試験場環境部の西村光由副主査研究員が講演した。

西村副主査研究員からは、イノシシや今後、管内でも被害が増加すると予想されているシカの生態と被害状況、間違った捕獲や防止策を具体的な事例を用いて説明があり、捕獲頭数が増えているのに被害が減少しないのは、被害を出している個体を捕獲できていないからとのことだった。

参加者からは、捕獲すべき個体と山にいる個体の違いや大型のオリの活用と効果など、多数の質問があり、鳥獣害対策への関心が強いと感じた。

農業水産振興課では、平成31年度も同グループの活動を支援していく。



総会



研修会

2. 紀の川市農業士総代会、研修会の開催

3月26日、紀の川市農業士会総代会（会長：山田泰寛氏）が、紀の川市生涯学習センターにおいて会員・関係者併せて45名出席のもと開催された。

総会では平成30年度事業経過報告と収支決算報告、平成31年度事業計画（案）と収支予算（案）、役員改選が行われ議案が全て原案どおり可決、承認された。

総会後の研修会では、和歌山県工業技術センター主査研究員 中村允氏から「和歌山県工業技術センターの取組について」と題して、日頃からの研究内容やフードプロセッシングラボ等について説明が行われ、参加者からは、酵素剥皮技術や、ため池の水処理方法等について熱心に質疑が交わされた。

続いて、和歌山県農業共済組合北部支所から、「収入保険制度」のメリットや、自然災害だけでなく低価格も含めた収入の減少等に対応しているとの説明があり、また、農業水産振興課播磨主任からは「地理情報システム」の紹介が行われた。

農業士からの体験発表として、地域農業士 宮楠園子氏から「消費者の声を聞く野菜栽培を目指して」～美味しい野菜を届けたい～と題して発表が行われ、農業を始めるきっかけや栽培作物の概況、販売方法等について発表が行われた。

今後も農業水産振興課では、地域の農業士活動を支援し、新たな情報発信に努める。



山田会長挨拶



工業技術センター中村氏講演



宮楠氏体験発表

Ⅲ 伊都振興局

1. 農業技術講習会果樹専門コース（第4回）の開催

3月6日、農業水産振興課では、伊都振興局内で農業技術講習会果樹専門コースを開催し、受講生12名が出席した。

有田普及指導員がパラフィン質の接ぎ木テープ（商品名：メデール）を用いた柿の接ぎ木方法について、実演を交えて説明。その後、橋本市内の柿園へ移動して、接ぎ木実習を行った。

この専門コースは、本年度4回目で最終の講習会となる。出席者からは、「実習がたくさんあり勉強になりました」、「剪定が大変勉強になりました」、「次年度も剪定講習に参加させて欲しい」、「この講習を基礎にして柿づくりを頑張っていきます。ミカンも教えて欲しい」などの感想が寄せられた。

今後、受講者から頂いた意見を参考に、さらに良い講習会となるように改善していく。



接ぎ木方法の説明



接ぎ木実習

2. 新規就農者座談会を開催

3月7日、農業水産振興課では、新規就農者の経営力の向上と相互の交流を図るため、新規就農者座談会を伊都振興局大会議室において開催した。座談会には新規就農者11名が参加した。

初めに、JAで営農や企画、販売に携わり、数々の農業経営事例や農業の変遷を熟知する元JA紀の里営農部長の菅野武志氏（かつらぎ町）からネットワーク作りの大切さや販路の考え方についての話題提供があった。また、九度山町指導農業士の山本恵造氏から商品PRの方法やグループで協力して商品の価値を高めてきた取組み等の話題提供があり、参加者は熱心に耳を傾けていた。話題提供を受けて、質問や参加者の販路の取組みに対する意見交換を行った。

参加者からは、「興味深い内容だった」、「人それぞれの考え方を聞いて良かった」、「自分

のやるべきことを確認できた」等の声があった。

当課では、今後とも新規就農者の経営力の向上を目的とした研修を行っていくとともに、相互の交流を深めるための支援を行っていく。



座談会

3. 隅田地域農産物利用推進協議会が研修会を実施

3月11日、隅田地域農産物利用推進協議会（会長：乾幸八）が研修会を実施し、参加者13名でタイガー株式会社（大阪府吹田市）及び河内ワイン館（大阪府羽曳野市）を訪問した。

鳥獣害対策機器メーカーのタイガー株式会社（大阪府吹田市）では、イノシシ、アライグマ、モグラの生態と対策について説明を受けた。獣害対策の手順として、まず、ほ場周辺に農作物を放棄しないことや草刈等の環境改善をしたうえで、対象の動物を理解し習性を利用した対策が必要であるなどの説明があった。

続いて、河内ワイン館では大阪府河内地域でのワイン製造の歴史や製造方法、ワインからブランデーを製造、そのブランデーを使って梅酒を製造しているなどの説明を受けた。

当課では、地域の農産物の活用により活力ある地域づくりを推進している隅田地域農産物利用推進協議会の活動を引き続き支援していく。



鳥獣害対策の研修



ワイン製造工場の見学

IV 有田振興局

1. 有田地方生活研究グループ連絡協議会 リーダー研修会を開催！ ～地元花きを活用したフラワーアレンジメント～

3月4日、有田振興局において、有田地方生活研究グループ連絡協議会（会長：三角文恵）の各グループのリーダー等34名が参加し、地元農産物の利用技術向上、情報交換を目的に有田地方リーダー研修会を開催した。

今回は副会長の山本美智和氏を講師として、有田管内で生産されたスプレーギク、トルコギキョウ、スプレーカーネーション等を使用したフラワーアレンジメントづくりを行った。

はじめに、農業水産振興課 近藤技師から和歌山県内及び有田管内の花き生産状況について説明した後、講師よりフラワーアレンジメントを作る際の花の配置などについて指導を受けた。

初めて体験する会員もおり、講師からコツを教わりながら、思い思いに作り上げていた。研修会は大変盛況であり、参加者は地元の花きについても熱心に情報交換していた。

今回の研修を通じて、有田管内で生産されている花きについて理解を深めるとともに地元農産物の利用促進につながることを期待したい。



フラワーアレンジメントづくり

2. 有田ネット21が研修会を開催！

3月6日、果樹試験場において『有田ネット21』（会長：山本源蔵）の第3回研修会が開催され、15名の会員が出席した。

『有田ネット21』は「パソコンを農具に」を合い言葉に平成8年に結成され、現在も年間2～3回研修会を開催している。

今回の研修会では、株式会社オーレンスパートナーズの執行役員 宮村昌吾氏から農業における雇用管理について、様々な事例に基づいた説明があった。

次に、「柑橘における病害虫防除技術について」と題し、果樹試験場の武田副主査研究員から、かいよう病、黒点病、そうか病など近年のカンキツ病害の発生状況と防除対策について、勘代研究員から、ハダニ類、カイガラムシ類、アザミウマ類等のカンキツで問題となる

害虫の発生消長と防除のポイントについてそれぞれ解説があった。

『有田ネット21』は農業者にとって市町、年齢、性別、個選・共選の垣根を越えて、交流を深められる貴重な場となっており、農業水産振興課では今後も活発な活動が行われるよう支援していく。



農業における雇用管理研修



病虫害防除技術研修

3. 温州みかん苗木の植付研修会を実施

3月13日、有田川町長谷川の青年農業士 猪谷浩司氏の園地にて、就農して間もない農業者を対象に「アグリビギナー等技術経営研修」を実施した。

6名の参加があり、地域農業士で上山苗木店を営む上山寿一氏から、温州みかん苗木の植付や整枝の方法について、実演しながら説明を受けた。植穴の深さや苗木を置く向き、良い芽を出すための枝の切り方などのほか、苗木に大敵な水分ストレスを与えないため、土壌の保水性を高める植付の手順や雨水を有効利用するコツ等が紹介された。

また、上山氏は苗木生産だけでなく、温州みかんも栽培しているため、就農当初から作業の効率化を心がけてきたことや、問題の解決は人に聞いて自分で試すのが早いことなど、今までの経験を踏まえたアドバイスもあった。

参加者からは、植付間隔や堆肥の施用、中晩柑の植付方法など多くの質問があり、園地条件や品種・品目による違いについて、上山氏から詳しい解説を受けた。

来年度も農業水産振興課では、新規就農者が地域の担い手として定着するための取り組みを継続していく。



苗木の植付方法、整枝方法の実演

4. 有田地方環境保全型農業研究会が第3回研修会を開催！

3月20日、果樹試験場にて有田地方環境保全型農業研究会（会長：池田義行）の研修会が開催され、会員、関係者ら合わせて41名が参加した。

本会は、化学肥料や農薬を減らしたカンキツ栽培を実践している、あるいは興味を持つ有田管内の農家を中心に構成されている団体であり、会員の栽培技術向上や知識習得を目的として定期的に研修会を開催している。

最初に、JAありだ有田市営農センターの竹中義樹副センター長より、「30年産みかんの総括～今年のみかん作りに向けて～」と題し、前年の温州みかんの振り返りと今年の状況に対応した栽培管理、今後の気象条件への対策や品種選定等について講演が行われた。

その後、和歌山県自然環境室の岡田和久室長より「森林樹木の生態について」と題して、和歌山県内の気候や森林樹木の移り変わり、森林の共生関係や森林に関する問題点等について説明があった。会員は熱心に聴講し、「みかんの樹の陰になっている樹木をどの程度までの高さまで切ればよいか」、「みかんの樹を早く大きくするにはどうすればよいか」等の活発な質疑応答があった。最後に「農薬の選定と有効な効かせ方」と題して、同会幹事の岩本治氏より、自園地の防除暦や発生する害虫に対する効率的な防除方法や薬剤の紹介があった。

農業水産振興課では、今後も環境保全型農業推進の一環として同会の取り組みを支援していく。



JAありだ竹中氏の講演



岩本氏による病虫害防除の解説

V 日高振興局

1. 重点プロジェクト

【新病害虫や梅干し生産への特化のリスクに強い梅産地づくり】

～「露茜」の導入推進・生産安定技術の実証と「ウメ斑入果病(仮称)」のまん延防止～

農業水産振興課では、新病害虫の侵入警戒とまん延防止と、梅干し生産に特化した農業経営の改善を目的とした、青梅の省力化栽培技術や「露茜」、「翠香」の導入推進を普及指導計画の重点プロジェクトとして取り組んでいる。

「露茜」の導入推進のため、みなべ町清川に主幹形栽培実証ほを設置して、高城及び清川出荷会を対象とした栽培講習会や、結実安定のための人工授粉試験を実施している。

3月14日、清川出荷会露茜部会（部会長：桑畑和也）の役員6名とともに、5園地に人工授粉処理を実施した。今年は「南高」の開花が早くから始まり、「露茜」との開花期間にズレがみられたため、2月25日に「南高」の蕾を採集し、開薬処理した粗花粉を利用した。これまで3年間、人工授粉を実施しているが、着果率が人工授粉の処理区、無処理区の違いが見られない場合があることや、バラツキが多くて効果が判然としていないこともあり、今年産についても、当課が独自に人工授粉処理したみなべ町気佐藤園と併せて、着果状況を調査する予定である。



清川出荷会露茜部会による人工授粉処理

2. 由良町農業士会が現地研修会を実施

3月26日、由良町農業士会（会長：杉谷哲哉）は、兵庫県神戸市で現地研修会を実施し、会員及び関係者を含め12名が参加した。

現地研修会では、農家女性で有機栽培に取り組む、（有）ヘルシー・ママ・SUNの西馬きむ子代表から現在の活動についてお話を伺った。

同社の取り組みのきっかけとしては、地元百貨店の担当者から「農家は自家用野菜には農薬を使わないと聞かすが、農家の食べしるをくれないか」との申し出があり、これを契機に近隣の12軒の農家女性に声をかけ、「神出有機栽培グループ」を結成した。グループ員が個人で有機栽培した農産物をグループで販売し、「やりがいのある農業」、「楽しい農業」、「もうかる農業」をモットーに活動を行ってきた。その後、グループ員から消費者に農業を知ってもらおうという意見があり、平成3年に法人化して（有）ヘルシー・ママ・SUNを結成し、平成9年に国庫補助事業で交流施設「グランメール」を建設した。消費者が農業を体験できる貸し農園や農産物の宅配サービス、味噌づくり体験などを実施してきた。

また、有機農業の担い手を育成するため、農業塾を開設し、研修生の受け入れも行っているなど幅広く活動を展開している。

会員からは、「販売は、どのようにしているのか」、「集落営農をしているのか」、「体験料はいくらか」など活発な質問があり、関心の高さが伺えた。



交流施設「グランメール」



西馬代表からお話を聞く会員

3. 由良町生活研究グループが子供料理教室を開催

3月27日、由良町生活研究グループ（会長：後藤明子）は、由良町中央公民館で子供料理教室を開催し、町内の3～6年生の児童10名が参加した。

最初に、後藤会長から由良町の特産であるワカメについて説明した後、会員が郷土料理であるハリワカメを使った巻き寿司の作り方を児童の前で実演した。その後、児童は3班に分かれて、巻き寿司の具にする大根の漬物とキュウリを包丁で切り、巻きすの上にハリワカメを敷き、その上にご飯を広げ、具をのせて巻いた。

また、具をレタス、ツナとコーンにマヨネーズを混ぜたものも巻いた。

児童らは、包丁の使い方や巻き方を教わりながら、自分の巻き寿司を作った。巻き寿司を食べた児童からは、「上手に巻けたので良かった」、「美味しい」、「おばあちゃんが作ってくれて食べたことがある」等の感想があった。

由良町生活研究グループでは、今後も子供たちに町の郷土料理を伝えるため、子供料理教室を開催する予定である。



会員がハリワカメの巻き寿司の作り方を実演



児童の実習

VI 西牟婁振興局

1. 重点プロジェクト【気象条件に対応した果樹産地の振興】

～温州ミカン「YN26」のせん定研修会を実施～

3月8日、上富田町岡に設置している温州ミカンの極早生品種「YN26」栽培実証園において、せん定講習会を開催した。生産者、JA紀南営農指導員、果樹試験場研究員及び農業水産振興課職員合わせて12名が参加した。

30年産の生育状況や収穫量の概要を当課の前田普及指導員から説明した後、果樹試験場の田嶋主査研究員が講師となり、せん定のポイント説明と実演を行った。栽培実証園の「YN26」は7年生樹となり着果量も年々増えてきたことから、前年の結果枝や立ち枝、内向枝をせん除するとともに、通路側に伸びすぎた枝は結果母枝まで切り戻し、長い結果母枝は整理するなど軽めのせん定を心がけるように呼びかけた。また、前年に着果量が少なく発育枝が伸びた樹では、今年着果が見られそうな立ち枝は切らずに麻ひもなどで誘引して、着果させるなど、樹勢の強い「YN26」ならではのせん定方法を紹介した。

食味の良い極早生品種が求められる中、市場関係者からは「YN26」の増産に期待の声が上がっている。生産者からも作りやすさや9月中に出荷できる品種として注目度が増しているため、今後とも当課では、栽培実証園における栽培研修会や生育調査、高品質栽培の実証を関係機関とともに継続していく。



せん定ポイントの説明



せん定の実演

2. 西牟婁地方農山漁村女性の日のつどい～見直そう！地域の伝統食～を開催

3月12日、田辺市民総合センターで西牟婁地方農山漁村女性の日のつどいが実行委員会（西牟婁地方漁協女性部連合会、西牟婁地方農業士会連絡協議会女性部会、西牟婁地方生活研究グループ連絡協議会）の主催で開催され、会員35名が出席した。

田辺市のグリル食菜ギャレット店主の赤堀展也氏が講師を務め、「縄巻鮓を復元して～南方熊楠おすすめの名物～」と題して、南方熊楠が田辺のご当地土産として推奨した「縄巻鮓（なわまきずし）」についての講話と試食を行った。

赤堀氏は、自然の流れに沿った季節感や調理法を大切に、体の内から癒される食べ物を提供することを信条に店を経営しており、一度は失われた地域の伝統食である縄巻鮓を復元した。縄巻鮓は、米の代わりに自然薯を使い、塩でしめたサゴシで巻き、バランなどで包み、イグサの縄で隙間なく巻いて酢につけて熟成されて作られる。

講話では「すしのごはんの代わりに自然薯を使うのは大変珍しい」、「熊楠が、田辺が忘れられないように、印象づけるために手土産として使ったとされる」など、縄巻鮓の魅力と食べ物から地域の魅力を発信することを語られた。また、縄巻鮓に使われる素材の説明の中では、「塩や調味料にこだわることで料理がおいしくなる。家庭を支える女性は縁の下の力持ち的存在。原料にまで目を向けてほしい」と調理するうえでの心構えが示された。

講演後、赤堀氏が縄巻鮓の縄を解き、縄巻鮓の試食を行った。参加者からは「あっさりしていておいしい」、「縄巻鮓は今回初めて知ったが、保存食として素晴らしいと思う」、「地元の食材の良さを見だし、地域の活性化にもつなげたい」などの感想があった。



縄巻鮓を紐解く赤堀氏



縄巻鮓

3. 音無茶栽培勉強会を開催

3月19日、農業水産振興課では、茶の樹勢回復作業を中心とした栽培勉強会を開催した。

講師は当課の北出技師と川添緑茶研究会会長の上村誠氏が務め、生産者9名、JAみくまの職員3名が参加した。

北出技師が、茶の生理や樹勢回復のための剪枝、病虫害防除、施肥などの栽培技術と、京都府が取り組む茶畑を活かした景観づくりの地域PR事例を紹介した。

また、上村氏から、病虫害防除と施肥におけるポイントや、近年被害が目立ってきたマダラカサハラハムシとチャトゲコナジラミの説明、2月に川添緑茶研究会が行った先進地視察研修の内容の報告があった。

参加者らは、敷き草を畝間に敷くタイミングについて質問をしたり、今年度に被害が多発したチャノミドリヒメヨコバイの被害の特徴などについて確認し合うなど、学んだことを今年の栽培に活かしていこうと意欲を示していた。

勉強会の後は、参加者の園地において、生育状況と樹勢回復の作業について確認を行った。

さらに、2月に樹勢回復のために台切りを行った樹について、上村氏が、手直しと見本のために再度、剪枝作業を行った。

園主からは、「手直しで刈ってもらった樹を見本に他の樹も仕上げ、樹勢回復に努めたい」との意気込みを語っていた。

当課では、今後も座学の栽培技術勉強会を実施するとともに、現場における技術支援を生産者やJAみくまの職員と一緒にやっていく。



みんなで栽培技術を勉強



現場での作業確認

Ⅶ 東牟婁振興局

1. 三津ノ地域活性化協議会が地元野菜の加工品評価交流会を開催

3月4日、三津ノ地域活性化協議会（会長：下阪殖保）は熊野川総合開発センターにおいて、地元野菜（タカナ・ネギ）を使った加工品の評価交流会を開催した。三津ノ地域活性化協議会のメンバーをはじめ、東牟婁地方農業士会や東牟婁農業青少年クラブ、新規就農者、関係機関より計37名の参加があった。

同協議会では、平成27年度より地域の地元野菜や新規導入作物を利用して、料理・加工品等試作研究や評価会を行い、地域産物の活用推進に取り組んでいる。

今回は、熊野川ふるさとキッチン（代表：玉置達子）のメンバーが試作した、品種の異なるタカナを用いためはり寿司3種、ネギだれ・ネギ味噌を用いた料理4種について評価を行った。

参加者からは「タカナの品種によってめはり寿司の味が全く違った」、「ネギだれがとても美味しかった」等の感想があった。また、東牟婁管内各地域の農業者が集まって試作品を囲んだことで、農業者同士の交流の場ともなった。

農業水産振興課では、引き続き地域の活性化のため、生産物を活用した加工品や料理の試作研究を支援していく。



タカナ・ネギを用いた試作品



試作品を囲んで交流

2. 三津ノ地域活性化協議会が鳥獣被害防止対策研修会を開催

3月4日、三津ノ地域活性化協議会（会長：下阪殖保）は熊野川総合開発センターにおいて、鳥獣被害防止対策研修会を開催した。三津ノ地域活性化協議会のメンバーをはじめ、東牟婁地方農業士会や東牟婁農業青少年クラブ、新規就農者、関係機関より計42名の参加があった。

研修会では、元農研機構近畿中国四国農業研究センター専門員の井上雅央氏を講師として招き「知ってからやろう鳥獣害対策」と題して、鳥獣害対策の基本について講演があった。

井上氏からは、地域ぐるみで対策に取り組むことの重要性、効果的な柵の設置や管理方法について説明がなされた。

参加者からは「勉強になった。今日の学びを大切に、今後の獣害対策に生かしていきたい

い」等の感想があった。

農業水産振興課では、これからも関係機関と連携しながら、三津ノ地域活性化協議会の取り組みを支援していく。



研修会

3. アグリビギナー農業経営研修会を開催

3月8日、新規就農者や若手農業者の農業経営に関する資質向上を目的として、アグリビギナー農業経営研修会を開催し、新規就農者・4Hクラブ・関係者計8名の参加があった。

講師には、串本町の重畳山でポンカンの環境保全型農業に取り組む竹田敏明氏を迎え、現地見学と自身の経営方法などについて紹介いただいた。竹田氏は、県特別栽培農産物の認証やプレミアム和歌山の認定を受けており、今回の研修では、環境保全型農業に取り組んだ経緯や生産物の高付加価値化の取り組み、商品を知ってもらうための宣伝方法等について講演頂いた。

参加者からは、土づくりや栽培技術に加えて、加工品開発、商品の販売・宣伝方法について積極的に質問が挙がり、先輩農家と新規就農者との交流の場となった。

農業水産振興課では、今後も新規就農者の経営の参考となる研修の機会を設け、新規就農者を支援していく。



園地見学



経営方法について紹介

4. 北山村でじゃばらせん定講習会を開催

3月12日、北山村じゃばら生産協同組合（代表理事：東幸則）は、道の駅おくとろのじゃばら園でせん定講習会を開催した。組合員と関係者11名の参加があった。

講習会では、はじめに農業水産振興課浅井普及指導員から更新した防除暦を説明し、解説を行いながら、実際にじゃばらの樹をせん定した。北山村のじゃばらは幹腐病の発生が多いので、せん定する枝が罹病していないかを確認しながらせん定するよう説明した。また、高木化した主枝が多かったので主枝の切り下げについても指導した。

参加者からは、弱った樹の剪定方法や果梗枝の整理方法、誘引の方法等の質問があり、それぞれの状況に応じたせん定方法を説明した。

当課では今後もじゃばらの安定生産と高品質化の取り組みを推進していく。



防除暦の説明



じゃばらのせん定

5. 太田のナス組合が栽培出荷検討会を開催

3月18日、太田のナス組合（会長：松本安弘）は、JAみくまの太田営農センターにおいて、栽培出荷検討会を開催した。生産者、市場関係者、JAみくまの及び農業水産振興課職員併せて13名の出席があった。

検討会では、はじめに各組合員から31年度の定植本数と栽培面積について説明があり、情報を共有した。

続いて、当課の堺副主査からナスの病虫害防除について、松本会長から例年のナスの栽培における注意点についてそれぞれ説明した。その後、防除と栽培管理について参加者で意見交換を行い、夏季高温対策としてマルチ資材の効果を検討（白色マルチと稲わら被覆の地温抑制効果の検討）することとなった。

次回は6月に栽培出荷検討会を行う予定である。農業水産振興課では、引き続き太田のナス組合の活動を支援していく。



栽培出荷検討会

Ⅷ 農林大学校 就農支援センター

1. UIターン就農相談フェアを開催

3月10日、就農支援センターにおいて、県内での自立就農や農業法人等への就職希望者を対象とした「UIターン就農相談フェア」を開催し、7名（県内5名、県外2名）の相談者が訪れた。「農業技術を身につけたい」、「資金を借りたい」、「農地の取得方法について知りたい」という相談者に対し、それぞれの希望に対応した情報を提供するとともに、JAトレーニングファームで受けることができる研修についての説明を行った。

またUIターン就農相談フェア内にて行われた新規就農セミナーでは、当センターの平成25年度社会人課程修了生が、上富田町にミニトマトで新規就農するまでの道のりや苦労したことについての体験発表を行った。就農希望者からは「就農した際の実際の話を知ることができて良かった」という声が多数寄せられた。

今回は農業体験研修も同日開催した。1名の方が参加し、ミニトマトやキンギョソウの収穫・出荷調整を体験した。参加者からは「農業技術の習得のために来年度に技術修得研修を受けたい」との意見が出された。



新規就農セミナー



農業体験研修

IX 経営支援課（農業革新支援センター）

1. 普及活動計画実績発表会を開催

3月20日、県民文化会館（和歌山市）において県農業改良普及連絡協議会会員出席のもと、標記発表会を開催した。本協議会は、農業改良普及活動が地域ニーズを反映させ、より活動の成果が上がることを目的に設置したもので、今回は会員（構成員：先進的農家、JA、市町村、学識経験者、マスコミ、民間等）から普及指導計画に基づく活動への意見や評価を受けた。

和歌山大学食農総合研究所岸上光克副所長が座長進行のもと、各振興局で取り組んでいる普及指導計画重点プロジェクト8課題（うち1課題は産地ブランド発掘事業を兼ねる）について担当者から発表を行い、会員から忌憚のない意見や提案を受けた。

会員からは、「今年は、3年間の普及指導計画の初年度であり、一定の成果が出せるようしっかり課題と向き合って取組を進めていてもらいたい」と期待を寄せて頂く一方、「鳥獣被害、労働力不足、担い手対策は今後、益々重要な課題となってくる。」といった今後の農業を取り巻く環境について、危惧する声も聞かれた。

その後、根来革新支援専門員が日高、西牟婁の広域で実施予定の「ウメ・ミカン産地のスマート農業実証」の新規計画について報告した。



重点プロジェクトの報告

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4931
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489